

日本痛風・尿酸核酸学会 理事会議事録

開催日時：2023年1月25日（水）17：30～19：13

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

(1) 金子理事長が議長となり午後17時30分に開催を宣言した。

理事19名中 出席16名 委任状2名

本日の出席状況は上記の通りで、定款第31条に基づき本理事会は成立する事が宣言された。

出席者（敬称略）

（理事）金子 希代子、市田 公美、久留 一郎、安西 尚彦、
荻野 和秀、四ノ宮 成祥、谷口 敦夫、津谷 寛、
土橋 卓也、箱田 雅之、細山田 真、益田 郁子
森崎 隆幸、森崎 裕子、山内 高弘、山田 裕一

（監事）板倉 光夫

（委任状）大山 博司、森脇 優司

（第57回会長）荻野 和秀

（若手委員長）桑原 政成

冒頭に金子理事長より名誉会員であった齋藤輝信先生（享年84歳）が2022年3月15日にご逝去されたとの報告があり出席者全員で黙祷をささげた。

(2) 続いて予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 2022年度決算・監査報告】細山田先生、板倉先生
細山田庶務幹事より配布された決算書に基づき2022年度決算内容の説明があった。貸借対照表の資産の部では資産合計が3,430,940円増の64,483,453円。負債の部では967,304円減の3,516,762円。正味財産合計は4,398,244円増の60,966,691円になったとの報告があった。正味財産増減計算書ではガイドライン第3版追補版の発行によりガイドライン

印税が 4,139,040 円増の 4,709,654 円となった。一方ガイドライン転載許諾料は 1,109,780 円減の 5,544,220 円であったものの、経常収益合計は 1,965,924 増の 25,186,025 円となった。また財産目録の方でも正味財産は 60,966,691 円となり貸借対照表と一致している。さらに税理士からの確認報告書も受け取っているとの説明があった。その後、板倉監事より監査報告があり 2021 年 12 月 1 日から 2022 年 11 月 30 日までの業務執行状況や事務手続などは適正に行われているとの報告があった。議長が議案 1 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て決算報告は承認された。金子理事長より昔に比べると学会に少し金銭的余裕ができてきたとのことであった。

【第 2 号議案 2023 年度予算案】細山田先生

引き続き細山田庶務幹事より配布の予算案に基づき 2023 年度の予算内容の説明があった。経常収益の受取寄付金 600,000 円は若手研究者支援事業に対する予算で 2023 年度は 1,100,000 円で計上、特別賛助会費は帝人ファーマの退会に伴い 500,000 円減の 700,000 円で計上、正会員会費は前年度予算とほぼ同額の 4,000,000 円計上している。次に経常費用について、昇給に伴う給与手当の増額、総会託児室費用が入るために会議費の据え置き、PC 購入済のため事務用品費の減額がある。租税公課は 2022 年度の事業収入に対して計算されているので 2,766,000 円を計上している。第 56 回学会総会収入および費用は 12,512,000 円と試算している。経常費用合計は 25,428,000 円と見込んでいるとの報告があった。金子理事長より、2023 年度は収益も費用も予算が増える見込み、第 56 回学会総会の会場が広い分費用が増えているとのことであった。議長が議案 2 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て予算案は承認された。

【第 15 号議案-1 役員改選】金子理事長

3 年間理事長を務め、この間にオンライン学会を 2 回、新しい委員会としてダイバーシティ委員会、若手委員会を立ち上げ若手研究者支援事業にも取り組んできた。今後重要なのはガイドライン第 4 版の作成に向け始動することであり、次の理事長にはガイドライン作成に経験が豊富で、かつリーダーシップを発揮していただければと思われる久留一郎先生を推薦したいとのことであった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て理事長は承認された。久留先生よりご挨拶をいただき、次の執行部候補も紹介された。副理事長が市田公美先生と山内高弘先生、庶務幹事が細山田真先生とのことであった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意

を得て副理事長と庶務幹事も承認された。その後それぞれの先生から学会をより活性化していきますとの前向きで心強いご挨拶をいただいた。

【第3号議案 第58回総会（2025年開催） 会長選出】 金子理事長
金子理事長より第58回学会総会の会長候補者として医療法人社団つばさ両国東口クリニック理事長 大山博司先生を推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。本日は不在だったが大山先生よりメッセージをいただいております。「歴史のある学会総会の会長にご指名いただき感謝しております。一診療所につき力不足の部分はありますが総会の成功に向けて努力させていただきますので諸先生方のご協力をよろしくお願いいたします。」とのことであった。

【第4号議案 2022年度学会賞受賞者決定報告】 金子理事長
2022年度学会賞は名誉会員・理事・評議員より推薦された候補者を選考委員会で審議し、厳選な審査の結果、大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 講師である藏城雅文先生に決定したことが金子理事長より報告された。2月の学会総会で学会賞受賞講演をしていただくとのことであった。

【第5号議案 2022年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告】 金子理事長
若手研究者賞に国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 桑原政成先生が決定し2022年10月のWEB講演会で受賞講演をしていただいた。若手研究助成に大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 藏城雅文先生及び静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生命科学科 川上由香先生が決定しそれぞれ研究助成金をお送りしたと報告された。

【第6号議案 第56回優秀演題賞候補演題決定報告】 四ノ宮先生
今回から取り入れられた優秀演題賞について、一次審査（アブストラクトの査読）をしていただいた委員の先生方には感謝したい。審査において内規はあったものの初めての試みということで、実際やってみなければ難しい部分があったが、最終的に6題の候補演題が決まった。後は当日の発表を見て最終審査し最優秀演題賞および優秀演題賞を決めていくとのことであった。

【第18号議案 第56回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】 四ノ宮先生

2月23日(木・祝)、24日((金)の両日で行う。例年前日に会長招宴という名前で開催していたが、今回は形を変えて関係各位と一部特別講演等の招へいの先生を呼んでささやかながら交流会をしたい。学会総会については皆さんの協力も得て演題も多数いただいているので、是非ご参加いただきたい。初日の夕方には懇親会も予定している。新型コロナ第8派の中だが感染対策を施して、意見交換の場として有意義な形で提供させていただきたい。懇親会等に出られない人はポスター会場に、飲食を伴わない会談スペースがあるのでそこで交流していただきたい。また皆さんのご協力のお陰で寄付金や協賛金についても順調に集まってきている。学会参加登録についてもすべてオンラインになっているので、まだ登録ができていない人は早めに済ませてほしい。非会員の方でも事前に参加登録してもらえば、自動でプログラム抄録集が送られてくるシステムになっており、事後もオンラインで一部講演が視聴できるなどメリットがある。今回初めて事前登録(1月10日まで)すると参加費が安くなるシステムにもなっていた。

【第13号議案 ありかた委員会報告】金子理事長

・新委員会『学会交流委員会』の発足(久留先生)

1つ目の目的は尿酸のプレゼンスは高まっているにも関わらず、会員がまだ増えてこないため、関連学会に本学会の重要性を理解していただくこと。2つ目の目的は日本医療機能評価機構からの命題で、ガイドライン作成に必要な臨床課題について関連学会からあらかじめ意見を聞いておくことなどがある。関連学会候補を第3版の時のリエゾン学会を含め28学会リストに記した。相手の学会からのリエゾン委員とそれに対応する当学会からのリエゾン委員を出して、その委員同士を介してコミュニケーションをはかっていただきたい。しかし当学会のマンパワーもあるので、この候補学会の中からガイドライン作成に必須な学会、特に尿酸についての記載のあるような学会を選定してほしい。学会が決まったら相手方のリエゾン委員と当学会のリエゾン委員を決めていくということの一つの目的として学術交流を盛んにしていきたいとのこと。森崎裕子先生及び森崎隆幸先生より、日本遺伝学会と日本人類遺伝学会は全く別で、日本遺伝学会の活動に関わっている先生はこの学会では非常に少ないと思われる。一方で日本人類遺伝学会は核酸代謝やトランスポーターといったヒトの病気について関係が深いため当学会員も関りが深いと思われる。その辺も考慮して候補学会を決めていってほしいとの意見があった。久留先生よりこのリストはあくまで参考であり今後ありかた委員会を中心に決めていく予定とのことであった。その後議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を

得て承認された。

・web 講演会の継続について（金子理事長）

今後も web 講演会は継続していく予定で、

1. 画像診断の hands on セミナー（DECT や関節エコーの撮像法）
2. web を用いた外国人との議論の場を創る。
3. 生成抑制薬と排泄促進薬の使い分けや併用に関する学会の提言を進めていく。

この3案が挙げられた。

【第7号議案 2022年度優秀論文賞受賞者決定報告】 市田先生

前年1月～12月の間に本学会機関紙に掲載された痛風と尿酸・核酸代謝に関する原著論文及び症例報告の中から選考委員会で審議の結果、最優秀論文賞は山形大学公衆衛生学衛生学講座 今田恒夫先生の「全国特定健診受診者の血清尿酸値1年変化と総死亡・心血管死亡リスクの関連について：J-SHC研究」、優秀論文賞はあわら病院内科 大槻希美先生の「排泄低下型高尿酸血症の診断におけるスポット尿の尿酸排泄分画（FE_{ua}）の妥当性」及び、持田製薬株式会社メディカルアフェアーズ部メディカルサイエンス 直江智子先生の「Efficacy of dotinurad, a selective urate reabsorption inhibitor, in patients with hyperuricemia/gout and cardiovascular risks : a pooled analysis of phase II/III studies」に決定したことが市田編集委員長より報告された。

【第8号議案 編集委員会報告】 市田先生

市田編集委員長より下記の通り報告があった。

1. 2022年のJ-Stageアクセス数は月平均24,500アクセスだった。順調に経過している。学会誌としては喜ばしいことである。
2. 2022年学会誌の掲載論文数は総説2編、原著10編あわせて12編だった。昨年に引き続き学会総会の発表から順調に投稿頂き掲載に至っていると思う。今後の課題は個々の論文のクオリティをどのようにあげていくかと考えている。
3. 編集委員の交代につき加藤雅彦先生、益田郁子先生、松尾洋孝先生、の3名の先生が編集委員を任期満了となり、編集委員で次期編集委員について投票した結果、中山昌喜先生、山岡法子先生、水田栄之助先生を編集委員会より推薦することとなった。議長が賛否を諮ったとこ

ろ、出席者全員の賛意を得て承認された。

【第9号議案 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告】谷口先生

COI 委員会からは特になし。

認定痛風医資格制度委員会報告

2022年4月1日から1か月間webによるオンデマンド形式で教育研修会を開き、受講者は34名（実際の受講者数は31名）だった。2022年の認定痛風医試験は委員の先生方の賛同を得てC B T方式で開催したが申込者がなかったので実施していない。認定痛風医は更新が4名、新規が1名であった。従来紙ベースで審査を行っていたが、事務局の移転によりスペースの削減を考慮し、更新の方は書類を電子媒体で送ってもらい委員全体で審査をした。新規の方は医師免許証など個人情報の問題もあるので紙ベースで送ってもらい審査をした。結果認定に問題なしという結果になった。その後議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て更新4名新規1名ともに承認された。2023年の教育研修会は昨年同様webによるオンデマンド形式で行う。大野先生、長瀬先生、森脇先生、瀬戸先生が任期満了となり、福岡赤十字病院の大坪俊夫先生、独協医科大学日光医療センターの大谷直由先生、京都大学の山下浩平先生、防衛医科大学校の河村優輔先生に内諾をいただいている。河村先生は留学期間があるのでその期間は谷口先生が留学の期間を妨げないように配慮するとのことで内諾を得ているとのことであった。その後議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て4名の委員につき承認された。昨年度の収支は収入162,000千円、支出は90,200円で黒字であった。これで認定痛風医の人数が58名（新規1名）となった。教育研修会に関しては講師の先生に対して特に講演料は出していないとのことであった。

【第10号議案 ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況を含む】市田先生

中国には痛風の患者さんが日本の約10倍いるので、せっかくガイドラインを作ったのなら中国語版を出版してはどうかということで、ガイドライン広報委員会から提案があり2020年の理事会で承認された。当初2021年4月に翻訳が完成していたが、出版に関わる費用5万円の請求が翻訳を担当した常先生にいくという問題が発生したため、執行部で検討し、学会と関連のある税理士、弁護士に相談した結果、学会から前ガイドライン広報委員長の内田先生を経て常先生に5万元支払うのが良いというアドバイ

スを得た。その後 2022 年 3 月に学会から出版協力金として 5 万元（約 80 万円）が内田先生に支払われ、内田先生から常先生に送金された。その後出版に向けて比較的スムーズに進んでいたが、当初約束していた 2022 年 9 月には出版が間に合わず、学会から働きかけて延長契約をした。次の目標は 2023 年 4 月だったがまだ（三次審査中）二次審査に進む段階のため間に合わないかもしれないが、何とか出版まではいけそうである。出版されたらドチヌラドを扱っているエーザイから資料として使ってもらえるかもしれないという話も出ている。また皆さんの周りに中国の留学生の先生や知り合いの先生がいらっしゃったらアナウンスをしてほしいとのことであった。

【第 1 1 号議案 ダイバーシティ推進委員会報告】金子理事長

2 年前 2021 年 2 月に発足しまず男女共同参画学協会連絡会にオブザーバーとして入会した。その後第 54 回と第 55 回学会総会時にアンケートを実施し、第 1 回委員会でこのアンケートの内容を検討した。どちらも web 開催だったためかコメディカルや非会員の方の参加が多く、医師の参加が少なかった。会員はオンサイト形式を希望する傾向にあるが、非会員は web 形式を希望している方が多かった。また学会総会の内容についてはシンポジウムが好評だった。このアンケート結果は第 56 回学会総会会長の四ノ宮先生にフィードバックし学会運営に生かしていただいている。第 2 回委員会では託児所についてどこの会社に依頼するかを検討した。第 56 回学会総会事務局の中山先生のご尽力もあり各地に支店があり実績も十分な ALPHA Corporation に決まった。次の学会ではシンポジウムを 1 つ担当する（若手委員会と隔年）。このシンポジウムはオンデマンド配信をしていただくように依頼している。単位についても多職種の方に参加してほしいのでさまざまな職種でとれるように運営事務局の中山先生に力を注いいただいた。引き続き今回の学会総会でもニーズアンケートも行う予定との説明があった。

【第 1 2 号議案 若手委員会報告】桑原先生

若手を中心とした自由な発想で議論し総会での企画や委員会活動への新たな提案をすべく 2021 年 5 月に発足した。最初メンバーは 8 名だったが、新しく独協医科大学の大内基司先生、東北大学の西宮健介先生、帝京大学の福内友子先生、山陰労災病院の水田栄之助先生、久留米大学の森川渚先生の 5 名が就任し現在 13 名で活動している。活動報告として昨年は 5 回の委員会を通し、共催シンポジウムの企画、今後の方向性の検討、研究発

表、Twitter 運用の検討などがあつた。そのほかの活動予定としては関連学会とのジョイントシンポジウムや、第 57 回学会総会で主催するシンポジウムにおける企画、またこのシンポジウムで発表する内容の英語論文化、学会宛ての質問に対する回答案の作成、肥満症診療ガイドランのパブコメに対する意見(案)の作成、学会認定の Twitter アカウントの作成、痛風・尿酸財団への「痛風・尿酸ニュース」の投稿などを挙げた。次年度の目標としては痛風・尿酸領域の魅力を伝え、本学会に興味を持っていただくこと、痛風・尿酸の正しい知識を普及させていくことなどを挙げた。また今後若手とベテランの先生方が交流できるような場を設けていきたいとのことであつた。金子理事長より若手委員会はかなりアクティブに活動していただいて、患者さんなどからくる質問にもこたえていただいているとのことであつた。

【第 14 号議案 庶務幹事報告】細山田先生

・認定痛風医名簿の二次利用について

2022 年 9 月にギミックドクターズ・ファイル編集部より、ドクターズファイルのサイト上で、痛風の診療が可能な医療機関を検索したときに、認定痛風医の名簿に載っている先生方の所属先医療機関を掲載させてほしいと依頼があつた。ドクターズファイルにはユーザーが病名から医療機関を検索できる機能があるが、現在の課題として痛風と関連する診療科を標榜している医療機関一覧が表示されてしまうために確証の低い結果になってしまう。そこでその疾患の専門性が確実であると思われる認定医の先生方に許可をいただき所属先医療機関を結果に表示できることを検討しているとのこと。また名簿の先生方の所属先医療機関のページに「痛風」のアイコンを表示させていただきたいとのことであつた。これに対してさまざまな意見があつた。

- ・HP で公開している認定痛風医の名簿を渡してしまうことを懸念される先生もいるかもしれないので 58 名の全員の先生に許可を得て進めてほしい。
- ・当年度以降は本人の確認なしで自動更新なのか。きちんと確認するべき。自動更新を認めることは学会としてどうか。
- ・掲載の許可は学会がとるのか、ドクターズファイルがとるのか。ドクターズファイルからの依頼なのでそちらに任せるべきだが、いきなりドクターズファイルから連絡がいくと驚かれる先生もいるかもしれないので、手順をしっかりと確認して総会でアナウンスしてはどうか。

- ・HPに掲載されている以上はさまざまなことが起こり得るわけで、ドクターズファイルはきちんと許可をとって掲載しようとしている分きちんとしていると思う。
- ・ドクターズファイルから各認定痛風医の先生方への連絡手段として、先生方のメールアドレスや住所のような個人情報は渡せない。HPに掲載している以上の個人情報は教えられないと伝えてほしい。

以上の点を確認・徹底するということを前提に、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。

・職員給与について

就業規則で15年以上の勤続年数になると理事会で給与を決定することになっている。今回15年になるので毎年月額2,000円昇給するのはどうかとの提案があった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。いつからこの規定ができたのかという質問があり、痛風・尿酸財団の規定を見本としており、痛風・尿酸財団の規定が変わったのが2年前からなので、本就業規則も2年目とのことであった。

【第15号議案-2 役員改選】金子理事長

(i) 理事の改選

新規選任1名 加藤雅彦評議員

(ii)

新規選任5名 今田恒夫先生、柴田茂先生、田村好古先生、古橋真人先生、山口聡先生

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意により原案通り承認された。

【第16号議案 その他】金子理事長

特になし。


【第17号議案 第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】荻野先生
会期は2024.2/29-3/1で場所はとりぎん文化会館。いまは寄付金を集めている最中である。詳細は56回学会総会の時にお話しするとのこと。

以上で理事会の審議はすべて終了し、議長は19時13分に閉会を宣言し

た。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

2023年 1月 25日

理事長 金子 希代子 

監 事 板倉 光夫 